

ロッテミライ チャレンジ2048

創業100周年までに、未来のために実現したいこと

サステナビリティビジョンを実現し、しあわせな未来をつくるため、創業100周年(2048年)までの新たな目標を掲げました。
この目標は、進捗や社会の変化に合わせて定期的に見直し、抽象的な目標を具体的にアップデートしていきます。

	2028年度(80周年)目標	2038年度(90周年)目標	2048年度(100周年)目標
 お客様の選択が しあわせな未来に つながるように ブランドを進化 させる	 心身の健康 <ul style="list-style-type: none"> ●噛むことによる健康増進の普及に努め、咀嚼チェックガムによる咀嚼能力評価回数を年100万回以上に増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ●噛むことによる健康増進が当たり前の社会を実現する ●製品・サービスをウェルビーイングに貢献できるようアップデートさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ●ウェルビーイングに貢献する新たな製品、サービス、事業領域でしあわせな未来をつくる  
 人と人をつなぎ 持続可能な地球を 実現する	 持続可能な調達 <ul style="list-style-type: none"> ●調達するすべてのカカオ豆の生産地域把握と地域が抱える課題への支援(ガーナ産は2025年度までに) 	<ul style="list-style-type: none"> ●主要な原材料で持続可能なサプライチェーンを実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての原材料で持続可能なサプライチェーンを実現する    
 人と人をつなぎ 持続可能な地球を 実現する	 サーキュラーエコノミー <ul style="list-style-type: none"> ●主要な3製品で容器包装をアップデートする ●FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)削減率50%以上(原単位、2019年度比) 	<ul style="list-style-type: none"> ●容器包装に使用するプラスチックを最小化、または、リサイクル可能な設計に変更する 	<ul style="list-style-type: none"> ●容器包装に使用する石油由来使い捨てプラスチックをゼロにする ●ステークホルダーと連携してFLWを最小化する  
 人と人をつなぎ 持続可能な地球を 実現する	 脱炭素 <ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー起源CO₂排出量削減率23%以上(スコープ*1+2、2019年度比) ●削減可能な一次データを用いたサプライチェーンGHG排出量算定を実現する(スコープ3) 	<ul style="list-style-type: none"> ●エネルギー起源CO₂排出量削減率62%以上(スコープ*1+2、2019年度比) ●サプライチェーンGHG排出量削減率50%以上(スコープ3、主なカテゴリー) 	<ul style="list-style-type: none"> ●カーボンニュートラルを実現する(スコープ1+2+3)  
 多様な人材が集い 独創的なアイデアを 次々と生み出す 会社になる	 社会とつながる <ul style="list-style-type: none"> ●役員および社員の環境研修受講率100% ●社員の食育活動等参加率20%以上(株式会社ロッテ、期間中1回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ●バリューチェーン全体の脱炭素やサーキュラーエコノミーの実現に一人ひとりが貢献する ●経験やスキルを社会に還元し、社外での多様な経験を個人および組織の成長につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ●社外との共創を個人および組織の成長につなげ、社会課題の解決に貢献する  
 多様な人材が集い 独創的なアイデアを 次々と生み出す 会社になる	 人財 <ul style="list-style-type: none"> ●女性管理職比率10%以上(国内グループ会社) ●エンゲージメント・レーティング**A以上(株式会社ロッテ) 	<ul style="list-style-type: none"> ●男女間賃金格差を是正する(国内グループ会社) ●働きたい会社として社会に認知される 	<ul style="list-style-type: none"> ●多様なグローバル人材が集い、活躍する職場を実現する  

*1 スコープ:GHGプロトコルに基づく排出量の算定範囲

*2 エンゲージメント・レーティング:企業と従業員のエンゲージメント(相互理解・相恵相愛度合い)を表す指標評価段階はAAA~DDまで11段階

ロッテ ミライチャレンジ2048策定プロセス

株式会社ロッテは2018年にESG中期目標を策定し、サステナビリティ活動を推進してきました。策定から5年が経過し、以前と比べて活動や情報開示は着実に進んだ一方で、「中期目標の先のビジョンがなく、将来の企業価値との相関が分かりにくい」といった課題を社内外から指摘されていました。そこで、創業100周年を迎える2048年をターゲットに、ビジョンの策定と目標の見直しを行いました。2048年という未来のビジョンや目標の検討にあたっては、実際にその時代を支える世代の声が重要と考え、若手から中堅の社員で構成したプロジェクトチームを中心に議論を進めました。

プロジェクトメンバーが考えた2048年のロッテ

プロジェクトメンバーが集まり、「100周年のロッテを考えるワークショップ」を開催してSTEP1の議論を行いました。まず、気候変動や人口減少など今後予想されるメガトレンドを理解し、シナリオプランニングを用いて2048年の当社に関わる外部環境の変化を考えました。その予測した2048年の未来において、当社がどうあるべきか、どうなっていないと生き残れないか、そしてどうなりたいかを「提供価値」、「環境」、「働き方」というキーワードごとに議論しました。サステナビリティビジョンやロッテ ミライチャレンジ2048の基になっている、議論の記録(グラフィックレコーディング)をご紹介します。

STEP1

2048年を考える

- ・気候変動や人口減少などのメガトレンドを理解
- ・シナリオプランニング*という手法を用いて2048年の未来を多面的に予測
- ・予測した未来において当社のありたい姿を議論

STEP2

ありたい姿を 言語化する

- ・STEP1の議論を受けて、2048年のありたい姿をプロジェクトメンバー各々が言語化
- ・2048年のありたい姿を3つのサステナビリティビジョンに集約

STEP3

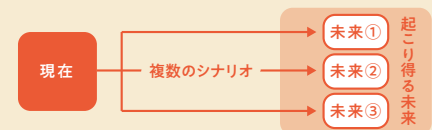
バックカasting で目標を検討

- ・STEP2までの議論をもとに、マテリアリティを再検討
- ・マテリアリティごとに2048年のありたい姿を具体的に議論し、目標を設定
- ・バックカastingで2038年、2028年の目標を検討



*シナリオプランニングとは

将来起こり得る可能性を複数の「シナリオ」として描き出し、それぞれの状況に対してどのように対応すべきかを考える手法。未来を正確に予測することはできませんが、幅広い可能性を検討することで、不確実性・複雑性の高い未来への対応力を高めることができます。



社外取締役より

100周年を迎える2048年、地球環境や社会はどのようなのでしょうか。今の延長線上では、地球の限界に近づき、経済社会も持続できません。でも、行動を起こせば未来は変われます。バックカastingを私は「未来の記憶」と呼んでいます。理想のイメージをインプットすることで、体験したことがないことにもチャレンジでき、きっと大きな変革を起こすことができるでしょう。



社外取締役 藪田綾子

